

トレンド提言

「利他の心」

ーイチロー選手に学ぶー

3月21日の東京ドームは超満員（4万5,000人超）であった。

大リーグ、マリナーズ vs アスレチックスの開幕2戦目にマリナーズのイチロー外野手（45）の出場があったからだ（筆者は7年前、同一カードのゲームをドームで観戦し、イチロー選手が5打数4安打を記録した。今回はテレビ観戦）。ファンは大選手イチローのプレー、とくにヒット1本を期待したに違いない。

結果は4打数無安打。

試合の8回、イチローの4打席後、球場のテロップに「試合終了後、イチロー選手の記者会見が予定されている」と表示された。球場は異様な雰囲気につつまれていった。

ゲームは延長12回、5-4でマリナーズが勝ったのだが、ファンは終了後、誰1人として席を立たなかった。

その後、イチロー選手はしばらくしてグラウンドに現われ、球場内をゆっくりと歩き、ファンに手を振った。この仕種が引退の意思表示であった。

深夜の記者会見は1時間20分に及んだ。

多くの質問が寄せられた。ここではイチロー独特のユニークな回答がみられた。イチロー語録と名付けてみたい。

報道

- ・日本の各紙はイチローの功績を中心に一面トップで報道した。引退を惜しむ声、生き方に感動したというファン、日本人の誇りとする人々など。
- ・米国では「エルビス・プレスリー、ベーブ・ルース、ビル・ゲイツを合わせた人材」（ニューヨーク・ポスト）、「マドンナ、マイケル・ジャクソンのような人気」（ワシントン・ポスト）、「イチロー・スズキは45歳にして、開拓者としての現役生活に日本で幕を下ろした」（ニューヨーク・タイムズ）

イチロー選手に学ぶ ～現役引退の会見から～

〈イチロー語録〉

○野球について

野球を愛している。引退は野球を続けられなくなったのではなく、終盤結果がだせなかったからだ。

団体競技は勝たねばならない、しかし勝てば良いというものでもない。

○偉大な記録について

記録はいずれ誰かが更新するだろう。記録自体は小さな出来ごとだ。「はかりは自分の中にある。はかりを使いながら自分の限界をちょっと超えていく。自分としては、自分なりにがんばってきた。小さいことの積み重ねが大切。」

○家族に対して

妻と愛犬「一弓」に心から感謝する。

○MLB選手になったことについて

渡米して外国人となった。そこで他人の痛み、苦悩を理解できる体験をした。

○日米野球について

MLBはパワー野球、野球の基本ができているとは思わない。日本の野球は基本を大切にしている。日本のファンは秘めた情熱を爆発させてくれた。

○少年たちに対して

好きなこと、熱中できることを早く見つけて、目標に向かって進んでほしい。失敗しても後悔はない。

○ファンに対して

今日の出来ごとに感動した。「あんなに球場にファンが残ってくれた。死んでもいいという気持ちはこういうことなんだと思います」。多くの人たちに楽しんでいただけたことがうれしい。

〈学びたいこと〉

- ・結果偏重に陥らず、厳しい自己評価を繰り返しステップアップする人間像
- ・様々なジレンマを克服するため力の限り生きるエネルギッシュな生きざま
- ・「自己承認欲」は人並み以上、プライドも高い。だが「自己顕示欲」はなく、謙虚さ、丁寧さ、他人への思いやりなど社会人としての高いモラルを保持している
- ・野球を通じて人の道を求めている
- ・利他の心が身につけている45歳(他者を喜ばせ、その喜びを我が喜びとする)

現役引退という大きな変化であり、同時に幅広いファンやチームメイトとの「別れ」が到来した時だった。別れは悲しいことだが、今日流された涙は、惜別、感涙によるものが多かった。そして、春にふさわしいさわやかさを覚えた。

▼イチローの野球足跡

通算打撃成績 (2019年3月21日現在)

・ **13,553** 打数

〔 日本 3,619 打数
 米国 9,934 打数

・ 打率 **.322**

・ プレー年数 **28**年
 (1992~2019年)

・ **4,367** 安打

〔 日本 1,278 安打
 米国 3,089 安打

・ 出場試合数 **3,604**

・ 打点 **1,309**

・ 盗塁 **708**

NPB	
1992年	愛知・愛工大名電高からオリックス入団1年目は出場40試合で打率2割5分3厘
94年	登録名を「イチロー」に。年間最多記録となるシーズン210安打を放ち、打率3割8分5厘で初の首位打者に
95年	1月に阪神大震災が発生。「がんばろう神戸」を合言葉に果たしたリーグ優勝に貢献
96年	2年連続でリーグ優勝。日本シリーズで巨人を破り日本一に
99年	史上最速で1,000安打に到達
2000年	史上初の7年連続での首位打者に。首位打者7度は張本勲と並んで歴代最多タイ。オフに大リーグ・マリナーズに移籍
MLB	
2001年	新人最多となる242安打を放ち、打率3割5分で首位打者に
04年	ジョージ・シスラーの大リーグ年間最多257安打を84年ぶりに更新し、262本に
06年	第1回ワールド・ベースボール・クラシック(WBC)に日本代表の中心選手として出場し、優勝に貢献
07年	オールスター戦で大リーグ史上初となるランニング本塁打を放ち、MVPに
09年	連覇した第2回WBC決勝の韓国戦で、延長10回に決勝の2点適時打を放つ 日米通算3,086安打。張本勲のプロ野球最多記録を抜く。大リーグ史上初の9年連続200安打
10年	10年連続200安打
16年	(6月)日米通算4,257安打を放ち、参考記録ながらピート・ローズの大リーグ歴代最多安打4,256を抜く (8月)大リーグ史上30人目、日本選手として初となる通算3,000安打に到達
17年	マーリンズが契約を更新せず、フリーエージェント(FA)に
18年	6年ぶりに古巣マリナーズ復帰。5月に会長付特別補佐に就任、15試合の出場にとどまる
19年	3月21日に引退表明